

茨木 JC
[大阪]

「現役の応援団」を合言葉に
285名が一丸でサポート

来年、市制施行60周年を迎える茨木市は、戦後間もない昭和23年に1町3村が合併し誕生しました。その後、高度経済成長の波に乗り、大阪府のベッドタウンとして、また家電産業や食品産業の工場集積地として、着実に発展を遂げました。とりわけ、昭和45年に開催された日本万国博覧会の際は、市内所在の2駅が玄関口となったため、大きな賑わいを見せました。

茨木ゆかりの人物では、日本人初のノーベル文学賞受賞作家である川端康成氏がいます。氏は幼児期から旧制中学校を卒業する18歳までを茨木で暮らしており、現在も名誉市民として親しまれています。古くから交通の要所として発展してきた茨木ですが、ここ数年は大規模工場の移転という暗い話題が続いています。一方で、住宅地としての人気は依然高く、平成15年、16年は、2年連続で人口が1%増えました。

現在も市北部の丘陵地において、国際文化公園都市「彩都」の開発が進められており、アメニティーの高い居住エリアと、ライフサイエンスの研究開発拠点の形成を目指しています。

茨木

JCは1961年6月24日に東大阪JC(旧布施JC)のスポンサーのもと全国で206番目のLOMとして誕生し、昨年で創立45周年となりました。

本年度は茨木JC初の女性理事長である水木真実子理事長を筆頭に現役メンバー83名が日夜JC運動を展開しております。そのような中、シニアクラブの主な活動として、ましては総会、現役との交流会、姉妹JCであるJCI KOREA MASANとの相互公式訪問、じゃがいもゴルフコンペの開催など現役メンバーの活動を後援することを目的に活動しています。

JCを卒業しても、現役時代に備えつけられたパワーは劣るところ

を見せず、仕事はもちろん、PTA関係や自治会関係、また関係諸団体へと幅広く活躍されているメンバーが茨木のまちに多数点在しているのも茨木JCシニアクラブの特色です。今後とも若林三雄会長のもと「シニアクラブは現役の応援団」を合言葉に285名のシニアクラブメンバー一丸となり現役メンバーのサポートを行っていききたいと思っています。

日本JCシニアクラブ

大阪ブロック担当幹事 山本良平



JCI KOREA MASAN来日歓迎会



茨木JC現役・シニアクラブ交流会



総会であいさつする若林三雄会長



JCI KOREA MASAN茨木市長表敬訪問